

第 8 章 計画の実現に向けて

1 緑のまちづくりに向けた役割認識

本計画による緑のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するためには、市民・事業者・行政がそれぞれの役割を認識しつつ、多様な主体の参画による緑のまちづくりの推進が必要となります。また、これまで以上に市民協働や民間との連携による緑の活用が求められ、まちづくりや緑の専門家の支援のもと、共存・協働体制を築き、実行していくことが重要です。

■市民・事業者・行政・専門家の役割

市民

市民一人ひとりが地球環境問題や緑の持つ環境保全機能を理解し、環境意識を持つことが大切であり、その上で、市民自らが自分ごととして地域の緑の保全や緑化活動に参画するとともに、健康づくりや地域コミュニティ活動において、積極的に緑を活用することが重要です。

事業者

CSR 活動[※]の一環として、屋上・壁面緑化や駐車場緑化などの環境対策などに取り組むとともに、自治体や市民活動団体などとの連携により、地域とのつながりを深め、地域社会の持続的な発展に貢献するなど、積極的な社会貢献活動が求められています。

また、持続可能な質の高い魅力と活力ある緑のまちづくりを進めるためには、民間との連携を加速させる必要があり、新しいアイデアの提案や柔軟な取組みなど、事業者の積極的な緑のまちづくりへの参画が求められます。

行政

本計画の具体的な施策を推進するとともに、施策の取組み方を見直し、市民や事業者との協働体制づくりや緑に関する活動が促進するような機会の提供などを図り、緑のまちづくりが発展するための環境整備を進めます。

専門家

本計画の具体的な施策を円滑に実行するため、緑のまちづくりや生態系の保全などに関する技術的な支援を行います。



市民と専門家の協働による構想づくり
(魅力あふれる構想づくり構想 市民公園づくり会議より)

[用語の説明]

※CSR 活動：「Corporate Social Responsibility」の略。「企業の社会的責任」の意味。法令順守はもとより、地球環境への配慮や地域社会への貢献など企業が果たすべき責任のこと。

2 計画の進行管理

本計画による緑のまちづくりの進行管理については、行政において PDCA サイクルに基づく進行管理を行うとともに、市民の目線による進行管理を行うことが重要です。

■PDCA サイクルに基づく進行管理

本計画に基づき実施する施策の進行管理は、本市の「緑の将来像」を実現するための成果指標として設定した数値目標を活用し、PDCA サイクルにより、事業の進捗状況を確認（評価）するとともに、必要に応じて計画の見直し（改善）を行い、柔軟的に計画を推進します。

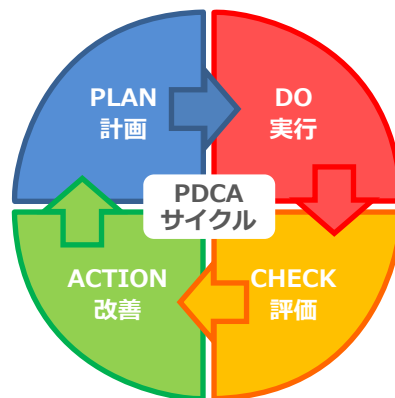


図 8-1 PDCA サイクルに基づく進行管理のイメージ

■市民の目線による進行管理

行政だけでなく、市民の目線による進行管理を行うために、定期的（概ね2年に1度）に実施される「市民意識調査（市民アンケート）」による市民の意識や満足度、公園の指定管理者による「公園利用者の意見・要望」の聴取などの確認（評価）を継続的に行います。

市の木 クスノキ（昭和46年8月28日指定）

暖かい地方に多く自生する常緑高木で、刈谷市の気候にもよく適合し、生長も早く公害にも強く、市内にも巨木が多く見られる。

市指定天然記念物に指定された唯一のクスノキが元町の専光寺の境内にあり、美しい樹形をなしています。

蓮如上人御手植えと伝わるこのクスノキは、高さは約18mで目通り幹周りは6mを越え、樹齢約500年といわれています。



市の花 カキツバタ（昭和46年8月28日指定）

中部地方から北の水湿地に群生する多年草で、初夏に濃紫色の花が咲く。愛知県の花にも指定されており、市内では小堤西池のカキツバタ群落が昭和13年8月8日国の天然記念物に指定されている。

古くから日本人に愛され、万葉集や伊勢物語、屏風絵など美術品のモチーフとしてもしばしば取り上げられています。

